

ここに注目！ 日本一短い私鉄「紀州鉄道」とタイアップ、  
補助金に頼らない手法で利用客を“おもてなし”。



## ポイント

観光客も楽しめる商店街づくりを目指して、商店街が自主的に協議会を設立。県も重点的な支援を行うなど、地域全体で事業計画の策定に取り組んでいる。その結果、平成25年10月には、日本一短い私鉄として知られる紀州鉄道と連携し、乗客に商店街で使えるクーポンチラシを配布する「ごぼう寺内町ふれあい商店街事業」の策定に至った。また、「紀州鉄道」・「商店街」といった点と点を繋ぐ取組のほか、「個店サービス+御坊の歴史語り付」などの工夫を凝らした「おもてなし」で利用客を出迎えるなど、人と人との繋がりを大切にしたい取組にも力を入れている。

### [商店街概要及び取組の背景]

#### 商店街に元気を取り戻せ

12の商店街組織で構成される御坊市商店街振興組合連合会は、御坊市の中心部に位置し、古い町並みで知られる「寺内町」を核に地域住民の交流の場として近隣型の商店街に発展してきた。

しかし、近年は大型店の進出による来街者数の伸び悩みや後継者問題、空き店舗の増加などにより、かつての賑わいは影を潜めているのが現状である。

そこで、商店街に元気を取り戻そうと官民がスクラムを組み、地域が一体となって具体的な振興策の策定に着手した。

### [取組の概要・効果]

Plan・Do

#### 紀州鉄道と連携した『おもてなし』事業

御坊市や御坊商工会議所などが力を入れている観光推進と商店街活性化を繋げるため、「りんこう」の愛称で親しまれている地元ローカル鉄道の紀州鉄道と連携し、鉄道の乗客を対象に商店街でおもてなしする「ご



古い町並みを残す商店街

ぼう寺内町ふれあい商店街事業」を実施。このような鉄道と商店街との連携は、全国的にも珍しい取組であるが、利用客の反応も良く、来店客が増加した個店も出始めている。今後、車内で商店街情報や生活情報の提供も行うことになっており、軌道に乗ればますます地域の活性化に繋がるものとして期待できる。

また、地域貢献として社会福祉法人が空き店舗を活用して実施する「障害者の就労支援を目的とした古民家レストラン」との連携も進めることにしている。

### [効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

#### “もっと” がんばる商店街を目指して

地域が協力し合いながら策定した「ごぼう寺内町ふれあい商店街事業」は、観光客のみならず地元住民からも好評の声を得ているが、まだまだブラッシュアップが必要である。例えば、紀州鉄道と連携したことで商店街を回遊するための「導線」は確保できたが、「物語（ストーリー）」が乏しい。そのため、今後は地元の語り部などとも協力しながら物語を作ることにも取り組み、この地を訪れる皆さんに楽しんで買い物をして貰える仕掛けを作っていく。

## [実施体制]

### 「知識」ではなく「知恵」を出し合う

御坊市商店街振興組合連合会では月に1度協議会を開催し、商店街の振興を目指して具体的な計画づくりを進めている。コンセプトは“補助金に頼らないソフト事業づくり”で、県、市、商工会議所、社会福祉法人などが参加し、「知識」ではなく「知恵」を出し合いながら計画を策定するよう心がけている。

また、この協議会を通じて第2弾、第3弾の計画を策定することになっているが、その際にはいろいろなプレーヤーが必要になるため、会員から新たに若手5人を選出して体制の強化を図ったところである。

商店街振興はまちづくりの観点から行うことが重要であり、そのことを参加者全員が認識しているため、それぞれが当事者意識を持ち、互いに連携しながら取り組んでいる。

## 基本データ

所在地：和歌山県御坊市菌

会員数：288名

店舗数：288店舗

関連URL：<http://www.gobo-cci.or.jp/>



紀州鉄道と連携して商店街のクーポンチラシを配布

## キーパーソン



御坊市商店街振興組合連合会  
理事長 坂井 和夫

## 補助金に頼らない“足腰の強い”事業づくり

補助金頼みのイベントは、どうしても一過性のものになりがちで長続きしません。そこで私たちは「費用をかけずに」「年間を通じて実施できる」事業づくりに取り組み、商店街の活性化を図ることにしました。

まず始めに行ったことは、協議会の設立です。今の時代、商店街の力だけで商店街を活気づかせるのは難しくなっています。そのため、県や市、それに地元を走る紀州鉄道などにも参加して貰い具体策を検討することにしました。協議会での約束事は「評論家にならない」「『誰が・どこで・何をするか』を具体的に考える」ということでしたが、出席者は当事者意識を持って一生懸命知恵を出し合いました。一番苦労したのは、補助金がゼロであることをどうやってカバーするかということでしたが、関係機関には極力無償で対応して貰うよう

お願いし、協力して貰いました。例えば、私はクーポンチラシを作成、紀州鉄道は無償で車内や駅舎のスペースを貸し出すという具合です。

補助金に頼らない事業を作るのはとても大変なことでしたが、その分、多くの方と協力して作っているという実感が湧きましたし、何より補助金に左右されない“足腰の強い”事業ができたことが商店街にとって大変意義深く、頑張った甲斐があったと思っています。

## 地域コミュニティの担い手になるために

商店街は単なる“買い物の場”ではなく、まちの顔でもあり地域住民が「集い、憩い、楽しむ」場でもあります。私たちは買い物に来られる地元の皆さんやこの地を訪れる観光客の皆さんに楽しんで買い物をして貰える商店街づくりを目指していきます。同時に街路灯の整備や防犯カメラの設置を進め、安全安心を提供していきたいと考えています。